

製品名: Per3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15971**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	PER3
別名	PER3; GIG13; Period circadian protein homolog 3; hPER3; Cell growth-inhibiting gene 13 protein; Circadian clock protein PERIOD 3
遺伝子 ID	8863.0
SwissProt ID	P56645
免疫原	抗血清はヒト PER3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

背景

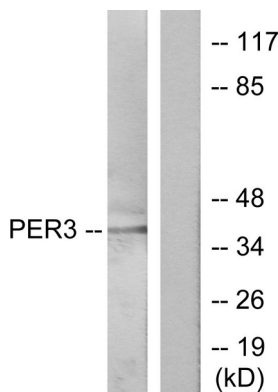
この遺伝子は Period ファミリーに属し、哺乳類の脳における主要な概日リズムのペースメーカーである視交叉上核において概日リズム

ムパターンで発現する。このファミリーの遺伝子は、運動、代謝、行動の概日リズムの構成要素をコードしている。この遺伝子は CLOCK/ARNTL ヘテロダイマーによって発現が亢進するが、その後、PER/CRY ヘテロダイマーを介して CLOCK/ARNTL と相互作用し、フィードバックループによってこの発現亢進を抑制する。この遺伝子の多型は睡眠障害との関連が指摘されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2014 年 1 月]、機能: 概日リズムの生成に不可欠な概日時計機構の構成要素。機能は不明です。、PTM:リン酸化には PER1 との結合および核への移行が必要であると考えられます。、PTM:ユビキチン化されています。、類似性:1 つの PAC (PAS 関連 C 末端) ドメインを含みます。、類似性:2 つの PAS (PER-ARNT-SIM) ドメインを含みます。、細胞内局在:主に細胞質内。PER1、PER2、CRY1、または CRY2 との結合により核に移行しますが、TIMELESS とは結合しません。、サブユニット:ホモ二量体。CRY タンパク質、CLOCK または NPAS2、BMAL1 または BMAL2、CSNK1D および/または CSNK1E、TIMELESS、および PER タンパク質を含む概日リズムコア発振器の構成要素です。PER1、PER2、CRY1、CRY2、および TIMELESS と直接相互作用します。CSNK1D または CSNK1E との相互作用は PER タンパク質の核内への局在を促進します。

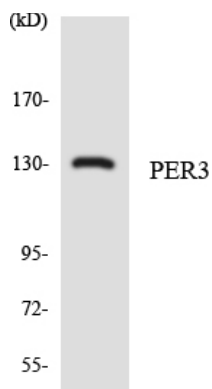
研究分野

概日リズム;

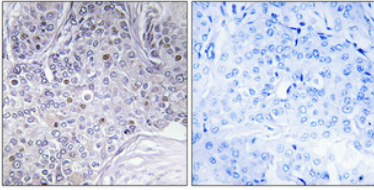
画像データ



PER3 抗体を用いた、インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PER3 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。